年　組　名前

道新でワークシート

旭山動物園わくわく日記　エゾユキウサギ

真っ白 雪色に衣替え

冬になると毛が真っ白に変わるエゾユキウサギの姿は、降り積もった雪景色に溶け込み、かくれんぼしているようだ。自然界では捕食される立場のため、外敵のワシやキツネに見つけられないように10月ごろから、徐々に茶から保護色の雪の色へと衣替えする。

6月の夏季開園に合わせ、東門と園内をつなぐ坂「ゆっくりロード」に、エゾユキウサギの飼育施設が完成した。あえて屋根を設けないことで雪が自然に入り込む。飼育担当の佐藤和加子さんは「狙い通り、雪に埋もれるウサギを来園者に見てもらうことができた」とほほ笑む。

9月に札幌市円山動物園から3匹を譲り受け、飼育施設では4匹を飼育する。

ラテン語で「臆病なウサギ」を意味する学名の通り、来園者の笑い声やカメラのシャッター音にも反応し、さっと逃げてしまう。このため、飼育施設にはエゾユキウサギが隠れることができるよう、飼育員が用意した大きな丸太や切り株がたくさんある。また、足の裏にも多くの毛が生えているのが特徴で、かんじきのような役割を果たし、外敵が来ると、雪の上を走って逃げることができる。

エゾユキウサギは旭川や近郊のゴルフ場や牧草地にも生息する。実は園内にも野生の1匹が㋐夜な夜な来園しては、エゾユキウサギの飼育施設前にふんをしたり、キリンの餌を盗んだり、木の樹皮を食い荒らしたりするという。佐藤さんは「飼育員の中では知られた常連。エゾユキウサギは私たちの身近にも潜んでいるんですよ」。

園内のホッキョクギツネも、冬になると暗褐色から白い毛に変身する。ふわふわの毛に包まれ、ずんぐりとした姿は、隣の施設で飼育されているレッサーパンダと同じくらい愛嬌（あいきょう）たっぷり。雪が降る中、震えながらカメラを構える来園者に対し、「北極圏に生息するホッキョクギツネは寒さに強く、氷点下70度でも少し寒がる程度」（動物園）という。日に日に寒さが厳しくなる中、動物たちの冬毛がうらやましくなりそうだ。

（若林彩）

エゾユキウサギは足の裏にも多くの毛が生え、雪の上でも滑らない（宮永春希撮影）

２０２０年１１月３０日（月）　朝刊　地方（旭川・上川）　１３ページ

①文中には、外敵から身を守るためのエゾユキウサギの体のつくりが２つ書かれています。次のカッコにあてはまる言葉を入れて、文を完成させましょう。

・体の毛を（　　）色から真っ白に替えることで、外敵に（　　）ようにする

・足の裏に多くの（　　）が生えていることで、（　　）のような役割を果たし、雪の上を（　　）逃げることができる

②毛の色が変わることを「衣替え」と表現していますが、文中には、もうひとつ別な表現をしているところがあります。その言葉を書き抜きましょう。

③ぼう線㋐の「夜な夜な」は「毎晩毎晩」「夜ごと」という意味ですが、「毎日毎日」「日ごと」という意味の言葉が文中にあります。その言葉を書き抜きましょう。